



## ～「人間環境宣言」と「成長の限界」からの半世紀～

### ◆ はじめに

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change、気候変動に関する政府間パネル) は 2021 年に第 6 次評価報告書を発表しています。第 3 次評価報告書からは、「気候変動 (温暖化) の主原因が人間活動である可能性についての知見」が併記されています。

その変遷をみると、第 3 次 (2001 年) 「その可能性が高い (66%以上)」、第 4 次 (2007 年) 「可能性が非常に高い (90%以上)」、第 5 次 (2013 年) 可能性が極めて高い (95%以上)」、そして第 6 次評価報告書では「疑う余地がない」とされました。<sup>1、2)</sup>

そこで今回は、気候変動への警鐘が鳴らされてからの半世紀余を振り返り、2050 年カーボンニュートラル実現に向けた各自の取組みを考える機会にしたいと思います。

### ◆ 地球環境対応、この半世紀の歩み

表-1 地球環境対応年表<sup>3)</sup>

西暦	国連等	IPCC	COP
1972	ストックホルム国連人間環境会議(「人間環境宣言」を採択)		
	ローマクラブ第1回報告書(通称「成長の限界」)を発表		
この間の動きは比較的緩慢(「技術の進歩による解決への期待」などから)			
(Sustainable Development)			
1984	「環境と開発に関する世界委員会(ブルトラント委員会)」設立 ⇒ 『持続可能な開発』の概念		
1988	IPCC (気候変動に関する政府間パネル) 設立		
1990	IPCC 第 1 次評価報告書		
1992	「環境と開発に関する国連会議(国連環境開発会議)」: リオデジャネイロ ⇒ COP の開催決定		
1995	IPCC 第 2 次評価報告書		
1997	COP 3 (京都会議) : 「京都議定書」採択 (数値目標導入)		
2001	IPCC 第 3 次評価報告書 (「その可能性が高い (66%以上)」 ↑ 温暖化の主原因が人間活動である可能性		
2007	IPCC 第 4 次評価報告書 (「可能性が非常に高い (90%以上)」)		
2009	「国連ミレニアム・サミット」 : ニューヨーク ⇒ MDGs	COP 15 (コペンハーゲン会議) : 先進国と途上国が対立	
2013	IPCC 第 5 次評価報告書 (「可能性が極めて高い (95%以上)」)		
2015	「国連持続可能な開発サミット」 : ニューヨーク ⇒ SDGs	COP 21 (パリ会議) : 「パリ協定」採択 (2°C目標、1.5°C努力を追及)	
2018	IPCC 1.5°C 特別報告書 (国際議論のベースが2°C目標から1.5°C目標へと急速にシフト)		
2021	IPCC 第 6 次評価報告書 (「疑う余地がない」) COP 26 (グラスゴー会議) : 「グラスゴー気候合意」採択 (1.5°Cが努力目標から目標値に)		
2023	COP 28 (UAE・ドバイ) 11/30~12/12		

### ◆ IPCC と COP

COP は 1992 年ブラジル・リオデジャネイロでの「国連環境開発会議 (地球サミット)」で結ばれた「気候変動枠組条約」の締約国会議 (Conference of the Parties、毎年開催)。

一方、IPCC は COP 等の国連会議や各国政府などの意思決定における重要な判断材料を提供しています。

### ◆ 環境問題への警鐘のはじまり

地球環境問題への警鐘の始まりは約半世紀前に遡ります。それは、1972 年のストックホルム国連人間環境会議での「人間環境宣言」の採択、そして同年のローマクラブによる「成長の限界」の発表です。

ただし、12 年後の 1984 年ブルトラント委員会からの報告書「われらの未来 (Our Common Future)」において『持続可能な開発 (Sustainable Development)』の概念が打ち出されるまでの動きは緩慢でした。

### ◆ 世界平均気温上昇抑制の目標値

2015 年 COP21 で採択された「パリ協定」により、『世界共通の長期目標として 2°C 目標を設定、1.5°C に抑える努力を追求する』とされました。

そして、2021 年 COP26 で「グラスゴー合意」が採択され、『2100 年の世界平均気温の上昇を産業革命以前の 1.5°C 以内に抑える』とされ、1.5°C はパリ協定の努力目標から目標値になりました。

### ◆ MDGs と SDGs<sup>2)</sup>

MDGs (Millennium Development Goals) は、2009 年 9 月開催の国連ミレニアム・サミットでまとめられた、2015 年を目標とする開発途上国の課題解決に焦点を当てた計画です。

対し、SDGs (Sustainable ...) は、2015 年 9 月開催の国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核を成すもので、開発途上国のみならず先進国の抱える課題の解決も目指すもの (~2030 年)。

### ◆ おわりに

地球環境を守ることは、我々ひとり一人の日々の行動にかかっていることを意識して、未来世代のニーズを損なわないよう取組みましょう。

#### 〈参考とした主な資料〉

- 1) 気象庁ホームページ
- 2) 池原庸介: 最新カーボンニュートラルの基本と動向がよ〜わかる本、秀和システム、2022.2.14
- 3) 各種資料から本号作成者が独自に整理

### 株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、ITソリューション等の業務を行っております。  
”なんでもインフォ”のバックナンバーについては <https://showacd.co.jp> をご覧ください。

作成者: 小野寺 徳雄